

このお便りのころ、首都圏在住の文理学部十八回生に声を掛けて丸ビルで「関先生を囲む昼食会」を持ったことがある。元氣なお姿に、一同「先生少しもあの頃とお変わりありませんね」と、われらは青春時代を思い出して感激した。次は卒寿をお祝いしましょうと話し合って散会したことがあった。

また、この年の秋、私事が混じって恐縮だが、こんなこともあった。娘が住み着いた奈良の月ヶ瀬を散歩していて、梅溪として江戸期から有名な月ヶ瀬の由来を記した石碑を見つけた。なんと、刻まれたその碑文が中田祝夫氏の書によるものだったのである。区民会館を訪ね問うと、娘宅の隣家があの中田祝夫氏の生家であることがわかった。感動のあまり、関先生にお便りを出した。まじめに国語学を勉強してきたおかげか、過去が現在につながった。中田祝夫氏の『東大寺諷誦文稿の国語学的研究』をすぐ思った。月ヶ瀬から西に山を下れば東大寺である。上代からの歴史を思う。月ヶ瀬は由緒ある土地だった。

関先生からは次のようなお便りをいただいた。

若い頃を思い出すうれしいお便り・・・東京教育大大学院に在籍したのは昭和三十二年から昭和三十六年のわずか四年間でしたが、本当に充実した四年間であつたと思ひ出します。当時、国語学担当の教授、助教授は、佐伯梅友先生、中田祝夫先生、馬淵和夫先生、のお三人でそれぞれ個性豊かな講義演習を拝聴することができ、幸せでした。またその頃は国語学会の事務局が教育大学にありましたので、毎月開かれる「国語学」の編集会議では時枝誠記先生、金田一春彦先生、築島裕先生他の著名な国語学者にお

目にかかれたのも僥倖でした。中田先生は訓点語学の第一人者で御著書を次々と上梓なさっておられたので、そのオーラを身近に感じ取ることができました。御著書『古点本の国語学的研究訳文篇』の校正のお手伝いに御自宅に伺ったこともあります。その本の奥書に『月瀬文庫主人の印』という朱印が貼付されています。平成十六年に（中田）先生の卒寿の祝いが催され・・・云々

とあり、中田祝夫氏の故郷や、祝夫という命名の由来、生い立ちなどを記した、中田氏手書きの略伝（コピー）も同封されていた。中田氏の卒寿祝の会の賑わいが思われた。そして、往年の大学者たちの薫陶を受け、院生の頃から国語学者として歩み続けてこられた、関先生の真つ直ぐな軌跡が見えた。

関一雄先生、お世話になりました。  
心よりご冥福をお祈り申し上げます。

（いわの・のりこ）

## 故関 一雄先生へのお便り

檜原葉子

今、王子で「お別れの会」が開かれているところですね。  
先程一級下の旧小林和子さんと電話でお話をしました。ご主人の江崎正典さんにご病氣でした。夫とちよっただけ話されました。

長男のコロナ感染で結局私は参列できませんでしたが、多くの方とお便りや電話でお話しさせていただきました。ありがとうございます。

王子は私が二十代から三十代にかけて通勤していた所なので、とても懐かしく、無認可保育園がどうなっているか見てみたい、とも思っていたのですが、それも叶いませんでした。思い出すままに方々お便りさせていただきました。

平川のキャンパスで国語学や国文学講読の授業を受けさせていただきました。

仕事を辞めて家庭にはいつてしまった私でしたが、拙文、拙歌等をお送りしてはご覧いただきました。

平川のキャンパスにバイクで通われる先生のお姿は印象に残っています。

一の坂川の源氏螢を見る会では、螢が先生の御手にとまり光っていました。

コンパの時の「でんでん虫」の歌もご表情豊かに皆を笑わせてくださいました。

山口大学を去られてからも梅光学院大学へ行かれ、私達が還暦の時の同窓会においでいただきました。

ずっと私の疑問に答え続けてくださり、ご論文も拝読させていただきました。

東京へ移られてからも「源氏」の講読をされていると伺い、旧佐藤恭子さんと、上京したらその仲間になって受講してみたい、と思っていました。「鈴虫」の巻まで行かれたというお葉書をいただ

き、「仏」の道へとはいられたことを知りました。

今頃はご長男 関 周さんの「草原」がホールに流れ皆様が歌っておられることでしょう。愚息が治ったら拝聴させていただきます。明後日8月2日より出社できるそうです。

長い間私共を導いてくださり、本当にありがとうございます。

(2023年7月31日)

(かしはら・ようこ)

## 関先生の思い出

二階堂 整

(人文1983年度卒)

関先生は肅々と授業を進められる方であった。授業中もあまり表情を変えすることもなく、多弁でもなかった。そんな先生が授業中、笑った話を書いてみたい。

といっても40年以上も前の話であり、記憶も不確かなところがある。なにより今と比べれば、戸惑うような点もあろうかと思うが、お許し願いたい。

僕が在学中、国語学は関先生と添田先生が担当なさっていた。

関先生は概論で渡辺実の「国語構文論」を、特殊講義で時枝誠記の文法の講義をなさっていたと思う。今、思えば、ぜいたくな学びを与えてくださったのだと思うが、学生の頃はそれに気づきもでき